



今日のテーマ



12月の注目イベント

Q 2015年12月の注目イベントは？

A ユーロ圏は追加の金融緩和、米国は利上げに踏み切るなど、金融政策に大きな変更がある見込みです。金融政策変更の影響を見極める月となりそうです。

●各国・地域の経済指標、金融政策決定会合等イベントの予定(2015年12月)

米国	欧州	豪州、その他	中国・アジア	日本
1日:11月ISM製造業景況指数 3日:11月ISM非製造業景況指数	1日:11月ユーロ圏PMI(確報) 3日:欧州中央銀行(ECB)理事会((予)追加緩和)	1日:豪州準備銀行(RBA)理事会((予)据え置き) 1日:ブラジル7-9月期GDP 2日:豪州7-9月期GDP	1日:中国等11月製造業PMI 1日:インド金融政策決定会合((予)据え置き)	1日:7-9月期法人企業統計季報、11月日経日本PMI製造業 4日:10月毎月勤労統計
4日:11月雇用統計 11日:11月小売売上高	8日:ユーロ圏7-9月期GDP改定値 10日:英国金融政策委員会((予)据え置き)	3日:豪州10月貿易収支 4日:豪州10月小売売上高 9日:ブラジル11月CPI 10日:豪州11月雇用統計	8日:中国11月貿易収支 12日:中国11月小売売上高、11月鉱工業生産、11月固定資産投資	8日:7-9月期GDP確定値、11月景気ウォッチャー、10月貿易収支 14日:日銀短観12月概要
15日:11月CPI 15-16日:米連邦公開市場委員会(FOMC)((予)0.25%の利上げ)	16日:ユーロ圏11月CPI 17日:12月独IFO企業景況感指数 20日:スペイン総選挙	17日:メキシコ金融政策委員会((予)据え置き) 22日:トルコ政策金利決定会合((予)据え置き)	16日:タイ金融政策決定会合((予)据え置き) 17日:インドネシア金融政策決定会合((予)ルピア安定で利下げ) 17日:フィリピン金融政策決定会合((予)据え置き) 18日:中国11月70都市住宅指数	16日:11月訪日外客数 17日:11月百貨店売上、11月貿易収支 17-18日:日銀金融政策決定会合((予)据え置き) 25日:11月CPI 28日:11月鉱工業生産(速報)、11月小売売上高
22日:7-9月期GDP確定値 23日:11月個人消費支出(PCE)物価指数	22日:16年1月独GfK消費者信頼感		31日:ASEAN経済共同体発足 月中:中国・中央経済工作会議	2015年度補正予算 2016年度税制改正大綱閣議決定 2016年度予算案閣議決定

ここがポイント

1日、3日の景況指数の水準や4日の雇用統計を確認しつつ、 FOMC(15-16日)は利上げに踏み切ると予想 。その後のイエレンFRB議長の発言により市場の変動性が高まる可能性も。	ECBは3日に追加緩和を発表する可能性が高い。具体的には①資産買取期間の延長、②預金ファシリティ金利の引き下げが。	RBAは政策金利を据え置くと予想するが、利下げに含みを残している。 経済見通しの変更タイミングである来年2月に利下げに踏み切る可能性がある。	インドネシアは物価がインフレーターゲット(3-5%)入りが確実と見られ、 ルピアが安定していれば利下げに踏み切る可能性がある。	引き続き 毎月勤労統計 で賃金動向を確認する展開。日銀は物価の基調と賃金の動きを注視しており、 追加緩和は当面ないと見る 。一方、10月以降の貿易は回復基調にあると見られる。内外需に一定の回復感が見られれば、市場には安心感が広がる。
--	--	---	--	--

(注)2015年11月30日現在。日付は現地時間。予想はすべて三井住友アセットマネジメント。上表は予定であり変更される場合があります。

(出所)各種報道等より三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。